

「今、私の晴雨計は！」^{②⑩}

「シルクロード・河西回廊の旅考」¹

平山征夫

やや旧聞になって仕舞ったが九月にシルクロードのスタート地点である中国・西安から敦煌、いわゆる河西回廊の旅に行ってきた。本年春、シルクロードの中間に位置するウズベキスタンに出かけたが、「それなら改めてシルクロードを辿ってみるか」と思いついたからだが、潜在的に一九八〇年代前半にNHKで放送された番組「シルクロード」の印象が喜多郎のテーマ音楽と共に強烈に残っていて、「何時か行ってみたい」と言う憧れを抱いていたからだ。同じ想いなのだろうか、このツアー参加の

最年長七八歳のAさんは、この放送当時に出版された本を持参していた。

北京から国内線に乗り換えて着いた今回の旅の出発点「蘭州」は、甘肅省の省都で長安の都を出発した旅人が最初に着く大きな都市だが、「中国の丁度真ん中に位置する街」と言われて「随分西に来たのに？」と違和感を持ち、改めて地図を見ると、新疆ウイグルまでまだずっと西に中国は続くことを改めて知らされた。

秦の始皇帝の時代から西や北からの異民族の侵略に悩まされ、文字通り万里に亘って永遠と長城を築き続けてきたこの民族の営みの壮大さには驚かされる。旅の間、ここかしこに残る崩れかかった長城に行くわしたが、「長い攻防の歴史が偲ばれて旅情を誘われる」と書きたいのだが、

長城と並行して高速道路や鉄道が走る光景もあり、これにはいささか興ざめを覚える。でも現在の中国の発展ぶりはそのようなことはお構いなしだ。

蘭州にある「甘肅省博物館」は中々見ごたえがあった。さすがシルクロードの省都の博物館である。その中でも「奔馬」という燕を足で踏みながら駆ける馬の像は躍動感に溢れ、中国でも評価の高い一級品で、中国観光局のシンボルマークにもなっている。この銅製の像は、一九六九年甘肅省武威市の雷祖廟雷台漢墓から多くの文物と一緒に発掘された。あまりにいきいきした馬の飛翔ぶりに郭沫若氏が「馬踏飛燕（馬、飛燕を踏む）」と名付けたほどである。この奔馬の後ろには同じく地下から発掘された騎馬軍団が並んでいた。

地下からこうした素晴らしい埋蔵物が発掘された事例は中国では枚挙に暇がない。秦の始皇帝廟から出た兵馬俑はあまりに有名だが、漢の六代景帝の陵からも兵馬俑よりずっと小さいがリアルで服をまとった二万體以上の兵隊や女兵、農民や家畜などの俑が大量に出た。豚など家畜の俑は特に見事だった。それも本格的な墓の調査ではなく、ドイツとの酸化する防止の研究の一環として発掘を行った周辺調査でこれだけの文物が出たのである。

知事時代、環境庁に内緒で中国からの朱鷺の入手を画策していたが、併せて新潟―上海―西安という航空路の開設計画し、西安に陝西省長を何度か訪ねて協議をしていたが、陝西省の朱鷺センターへ本県からの

支援を申し出たところ大変喜ばれ、景帝の墓に入る通路の両壁に描かれていたという壁画（法隆寺の壁画によく似ていた）を特別に見せてくれた。五人づつ息をひそめて部屋に入ったが、その際に「日本人では井上靖先生以来です」と言われたのにはびっくりした。そういえば県の美術館で一九九九年に「中国の正倉院法門寺地下の秘宝―唐皇帝からの贈り物展」という展覧会を開催したが、この法門寺の秘宝も台風で倒れた塔の下から出てきたものだ。

こう書いてきて発掘に関してある経験を思い出した。毎年知事は五人天皇陛下に地方の話題をご進講する。私が選ばれた時には「佐渡での朱鷺の保護・繁殖活動」について「お話をさせていただいた。同じ時、

佐賀県知事が吉野ヶ里遺跡の説明をされた。説明後天皇陛下から「吉野ヶ里のほか青森の三内丸山など近年大規模で立派な縄文遺跡が発掘されているが、まだこうした遺跡は出るのでしょうか」との御下問があった。それに対して佐賀県知事は、やや緊張の面持ちで次のようにはっきり答えられた。「ハイこれからは道路工事を一生懸命いたします」。しばらくして陛下は頷かれておられた。

（平成二十八年十一月十四日）